



環境ニュース

2012 年 4 月 20 日
1 ページ

EU と中国: グリーンな世界を実現するための協力関係

世界の 2 大勢力として、中国と EU はエネルギーをより効果的に利用し、より良いエネルギーの活用、資源効率の向上およびエネルギー消費の緩和を推進することにより、製造と消費における新たなグローバル・パターンの形成に向けて重要な役割を担います。EU と中国は、それぞれの経済体制を十分に活用し独自の課題に取り組む必要があるものの、経験を共有し合いパートナーシップを構築することによって共に成長できるでしょう。

グリーン政策において協力を推進すべき 2 つの分野は、持続可能なエネルギーと地球に優しい都市化への取り組みです。中国は、2020 年までにエネルギー効率を 40%改善することを目標にしています。この件を話し合う目的で、中国の副首相がブリュッセルを訪問しました。5 月初旬には、都市化に関するハイレベル・フォーラムを開催し、中国で試験的に実施される 7 つのプロジェクトについての発表が行われる予定です。

中国では、温室効果ガスの排出に関するキャップ・アンド・トレード制度を今後の 5 カ年計画に導入する予定です。現段階では、EU の ETS スキームの事例を参考にしています。

しかし、依然中国では石炭に対する依存が大きく、国内の発電の 70%は石炭を燃料としています。そのため、二酸化炭素回収・貯留(CCS)技術を開発しなければ、石炭関連の二酸化炭素排出は削減できません。中国は、(ALSTOM や Siemens などの)欧州の技術支援を受け積極的に CCS 技術の開発を推進したことから、2016 年には初の開発計画が実施されます。欧州では、財政上の問題や国の反対があるため、CCS 技術の開発は困難です。しかし、中国にはこのような障害もありません。CCS 技術の開発が中国で実現すれば、必然的に欧州にもその機会が回ってくるはずで、この政策は、温室効果ガスの削減には効果的ですが、断熱材業界にとっては好ましいものではないでしょう。

「資源効率に関する政策とは、もはや私たちの経済体制と環境は分離できないことを理解した上で成り立つものです。財政制度における債務を特定する際には、生態系の債務も併せて特定しなければまるで意味がありません。私たちには、金融資本と同じくらいの自然資本が必要なのです。」

ジャンネツ・ポトクニック、欧州委員会環境委員

産業設備

加盟国と欧州議会は、重大事故の危険性に関する「セブソ II 指令」の改正を行うことに同意しました。この指令は、バインダーを(購入せずに)自社で製造するミネラルウール工場や工場の敷地内で多数のバインダーを保管するミネラルウール工場にとって重要となるものです。新たな法は、2015 年より実施される予定です。改正に向けた話し合いで難局となったのは、一般市民の情報や司法に対するアクセスに関する指令および法の適用範囲についてです。情報に関する要件がより厳格になり、情報の開示が義務付けられることになります。

廃棄物

欧州環境事務局は、廃棄物枠組指令の実施に関する研究を依頼しました。その研究から、廃棄物関連法をより強化するには、まずは廃棄物を未然に防ぐ必要があることが明らかになりました。

<http://www.eeb.org/EEB/?LinkServID=EA558208-5056-B741-DBE93B4744B9D08D&showMeta=0>

欧州司法裁判所は、出荷書類の廃棄に関して非常に重要な判決を下しました。営業利益に損害を与える危険がある場合も、書類の作成者または収集者の氏名を明記することが義務付けられることになったのです。廃棄物の透明化を徹底することは、EU の廃棄物法において「当然の結果」であると欧州司法裁判所は考えます。

委員会の環境総局は、廃棄物の管理における経済的手段の活用について報告書を発表しました。

http://ec.europa.eu/environment/waste/pdf/final_report_10042012.pdf